

令和2・3年度 ルーブリック評価表



ホームページからも閲覧可能です。

(例)小学部4年生 音楽「交野バンド」

| 観点 | 項目 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|-----------|--|--------------------------------------|------------------------|-------------------------|
| ①知識・技能 【単元目標】 様々な音に気付いたり、自分なりの方法で鳴らしたりすることができる。 | 音への気づき | 友だちの音に気づき、指差ししたり注目したりしている。 | 自分で鳴らした音に気付くことができる。 | 先生と一緒に鳴らした音に気付くことができる。 | 先生が鳴らした音に気付いている。 |
| | 「鳴らす」 | パチなどを持ち続け、何度も鳴らすことができる。 | 教員の支援なしで鳴らすことができる。 | 自助具などを用いて、自分で鳴らしている。 | 先生と一緒に鳴らすことを受け入れている。 |
| ②思・判・表 【単元目標】 自分のパートがわかり演奏したり、自分のパートまで待って鳴らしたりすることができる。 | 演奏力 | 自分のパートまで楽器を鳴らさず待ち、自分のパートで鳴らすことができる。 | テレビ画面を見て、自分のパートがわかり、鳴らすことができる。 | 先生の合図を見聞きして、鳴らすことができる。 | 自分のパートで先生と一緒に鳴らすことができる。 |
| | | 挑戦 | 何度も挑戦している(例:パチを落としてもすぐに持ち直して鳴らそうとする) | | |
| ③主体的に… 【単元目標】 演奏や前後の会話を楽しんだり、意欲的に取り組んだりすることができる。 | コミュニケーション | できたことに気付いたり、先生に賞賛されたりする中で、喜びを感じながらコミュニケーションをとっている。 | | | |
| | 楽しさ | 音への気づきや音が鳴らせたこと、演奏に楽しさを感じ、笑顔になったり身体を動かして表現している。 | | | |

本校のルーブリック表

縦軸:3観点 横軸:達成状況 からなる単元の評価規準表

R2年度から
個別の指導計画
が3観点に

単元の目標は
全員一緒に、
評価規準が
異なる表を

個々の評価規準
を立てるのは大
変だけど、達成
規準を3~4に分
けるならいける

できたことを3
観点にわけ
るのではなく、
元々評価規準
があるように

交野支援学校では、例年、小・中・高等部1名ずつ研究授業者を決め、授業実践を行い、全校研修として「研究協議会」を行っていたので、R2年度、R3年度の授業者にルーブリック表の作成を依頼し、それをもとに協議会を実施。協議会では、研究授業者が作成した「ルーブリック表」を見て、学年や分掌単位で「自学年の児童生徒ならどのような支援をしたら、どの達成規準になるか」「他学部だとどう考えるか」などのグループワークを行った。

コロナ禍なので研究部で動画作成→学年で協議会
これが結構好評！ルーブリックに興味を示す人も
自分でルーブリック表を作る人が出てきたり
研究部もグループワークを熟考！動画作成も頑張る！

◆ しかし研究授業体制に難しさが出てきました。

- ・中々、授業立候補者がでない。
- ・授業者と研究部の相談や検討時間が多い。
- ・「授業者と研究部」と他教員の熱量の差
- ・それもそのはず。課業中のため授業見学にいけない
- ・その結果、授業者の成就感が希薄に。
- ・会議研修の精選傾向



- ・もっと参加者が自分事に！
 - ・授業者にも参加者にも良くて！
 - ・授業見学ができて！
 - ・自ずと他学部交流もできる！
- そんな研究授業・協議会に！

少人数制研究授業体制の導入

◎令和4年度から「より近い距離で、より自分事に、より他学部交流を！」をテーマに、授業者支援会議システムを参考に新体制へ。

授業者支援会議システムとは

- ◎各グループ4～5名、計20グループの「縦割りグループ型研究授業」
- ◎各グループ授業者1名、その他は支援者として研究授業・協議会を実施
- ◎各グループで授業日を設定し、授業日の前日に行う授業前会議で、支援者に注目してほしい点などをあらかじめ伝える。
- ◎授業後、KJ法を用いた協議会を開き、支援者からの代替案や改善案を発表してもらう。



アンケートより

- ・他学部の授業を終始見学でき身近に感じることができた。
- ・以前の研究授業だと参観できない教員が多かったが、今回の方法であれば、必ず参観に行けるので良かった。
- ・漠然と見学するより、事前に観点を共有・確認できるため、授業見学の質がアップする。
- ・明日から使えるアドバイスをもらったので学年に共有した。

◆ もっともっと良い協議会にしたい！

研究部員で
アイデア発案法
の本を熟読！

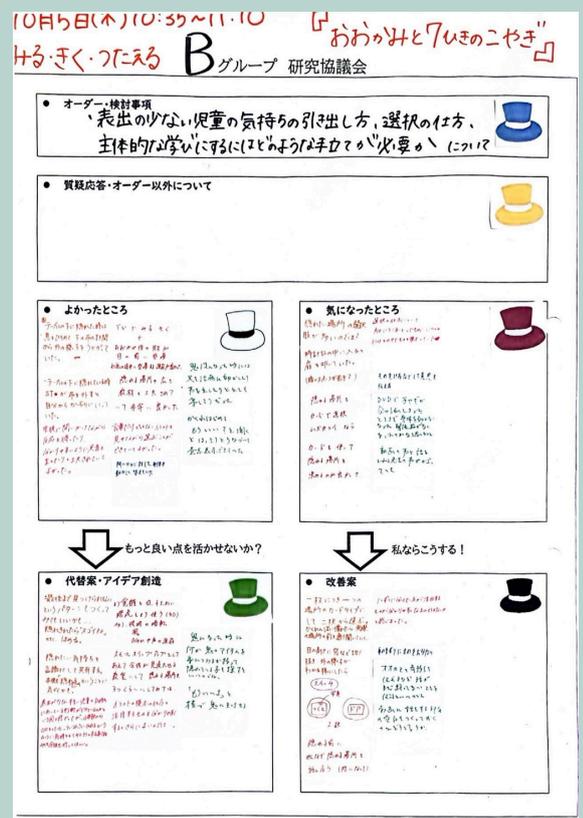
シックスハット法
を参考にワークシ
ートを作成

授業前の会議に
研究部も参画！

グループ全員が同じ視
点をもって授業見学で
きるようになり、協議
会の進行もスムーズに

グループの人数
を再検討

グループの人数を増加
.....
他の授業の安全体制が
「確保できない」となら
ないギリギリを計算。
でも教員の協力なしには
成り立たない。感謝！



これからも研究授業
協議会を盛り上げます